
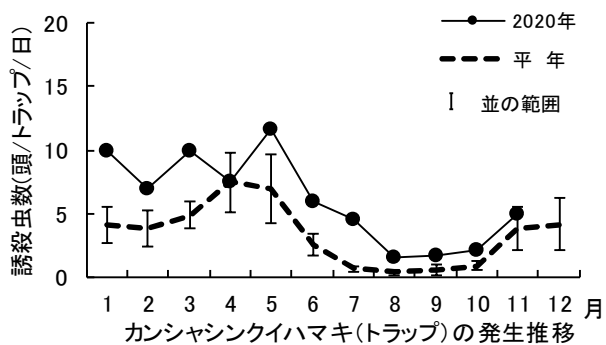
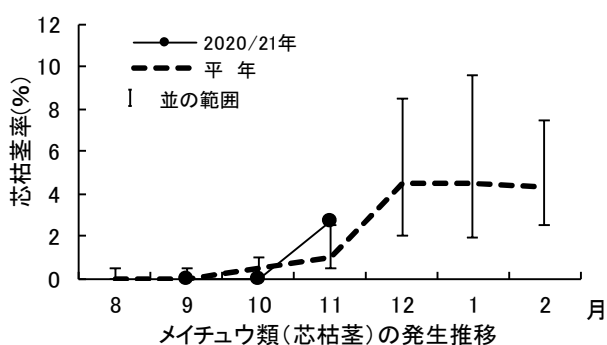


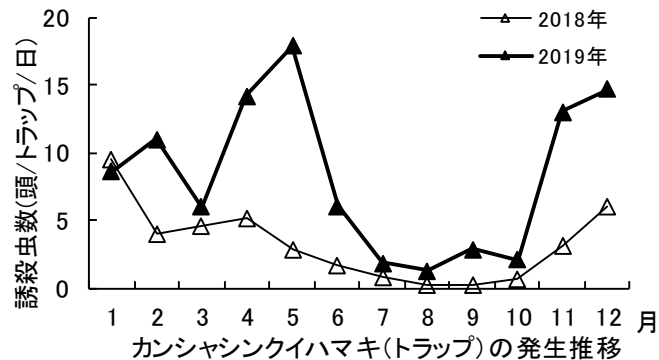
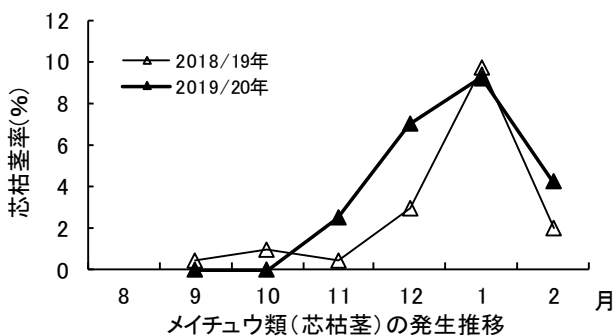
| | | | |
|-------|-----------------------|--------------------|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ) | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | やや多 |
| 予報の根拠 | | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：62.5% (平年値：77.7%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、64% (23/36頭) がカンシャシクイハマキであった。

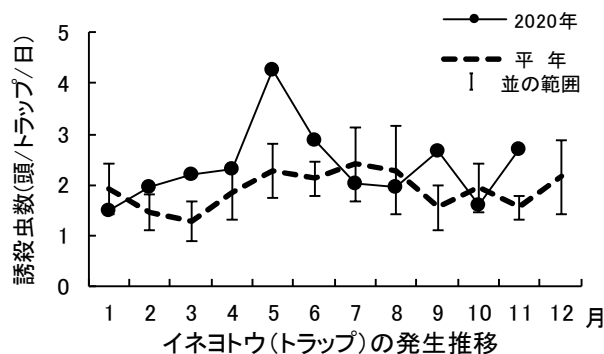
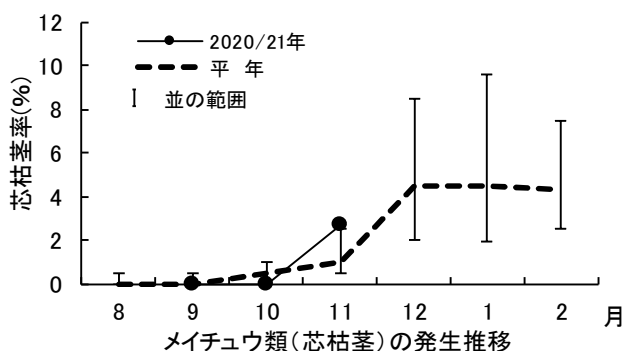
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

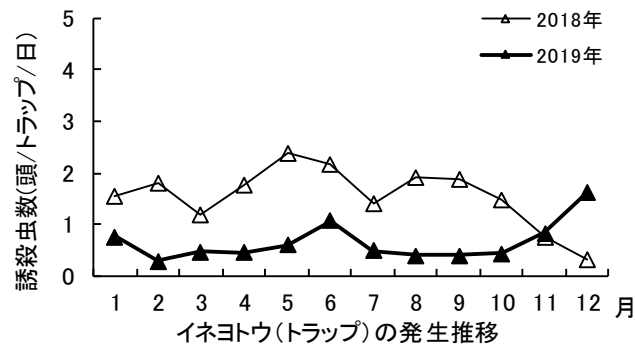
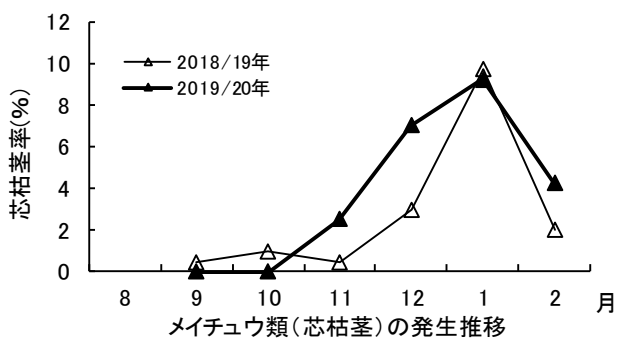
| | | | |
|-------|------------------|--------------------|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ② メイチュウ類 (イネヨトウ) | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | やや多 |
| 予報の根拠 | | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：62.5% (平年値：77.7%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、36% (13/36頭) がイネヨトウであった。

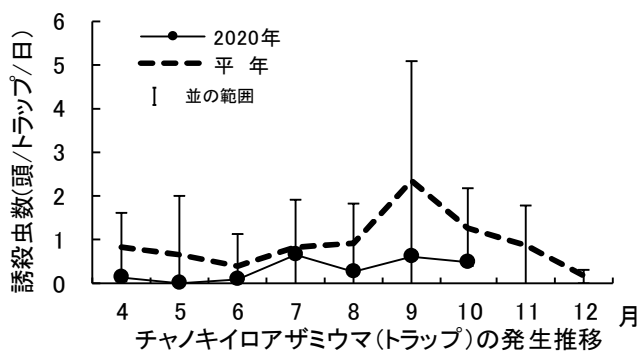
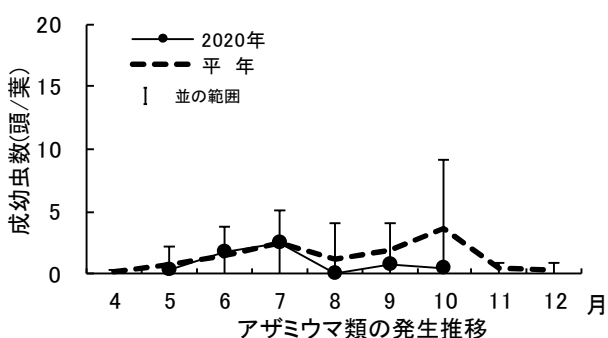
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

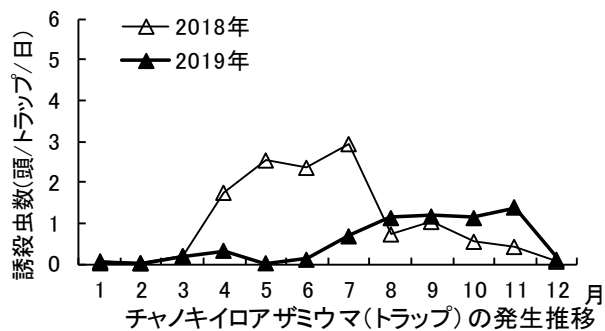
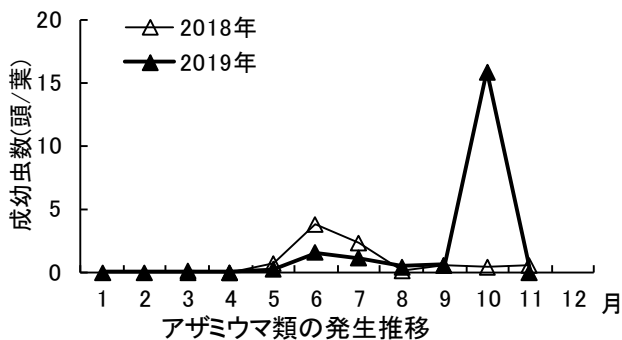
| | | | |
|-------|----------------|----|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | チャノキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | — | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・新梢数が基準に満たなかったため、11月の見取り調査データなし

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

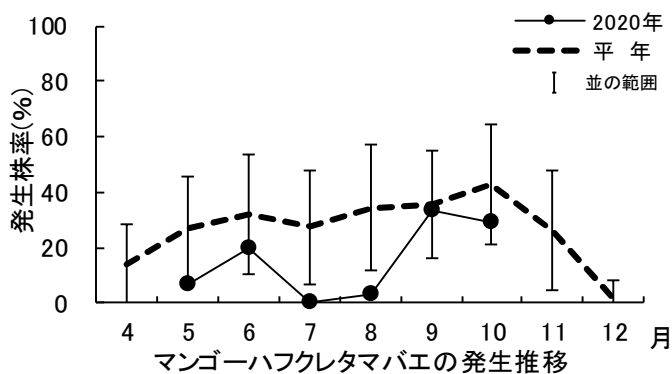


ナガエコミカンソウ

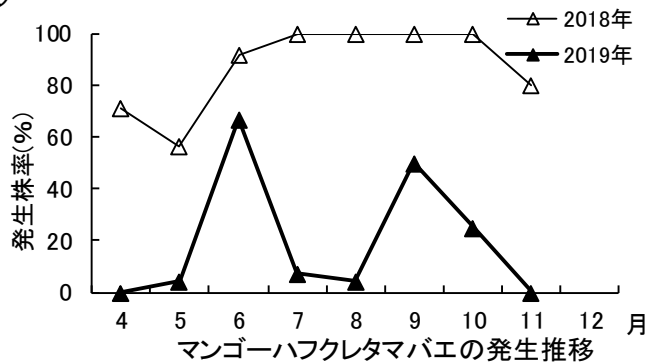
| | | | |
|-------|----------------|----|---|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | マンゴーハフクレタマバエ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | — | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | — | |
| 予報の根拠 | | | |

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・新梢数が基準に満たなかったため、11月の見取り調査データなし

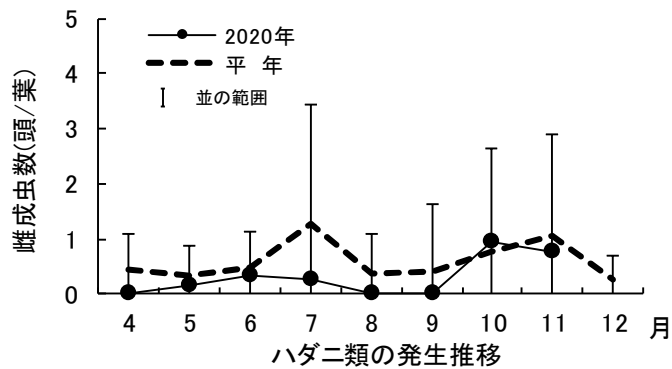
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

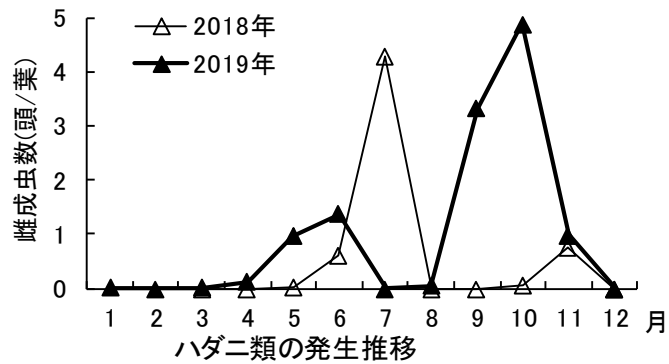
| | | | |
|-------|----------------|---------------|--|
| 作物 | マンゴー | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ① ハダニ類 | |  <p>シュレイツメハダニ</p> |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↓ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↓) | |

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：60% (平年値：38%)

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

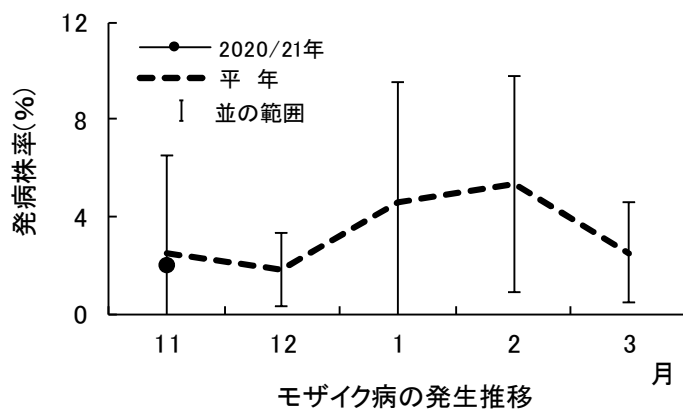


ハダニの寄生による葉のかすれ症

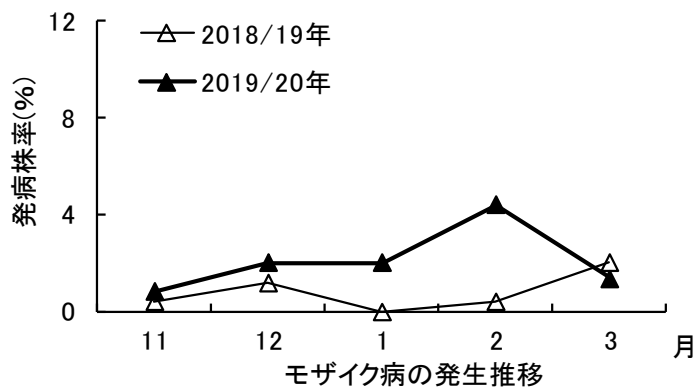
| | | | |
|-------|---------------|--------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ① モザイク病 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 12 月の発生量（平年比） | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移（↘） | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：40%（平年値：31%）

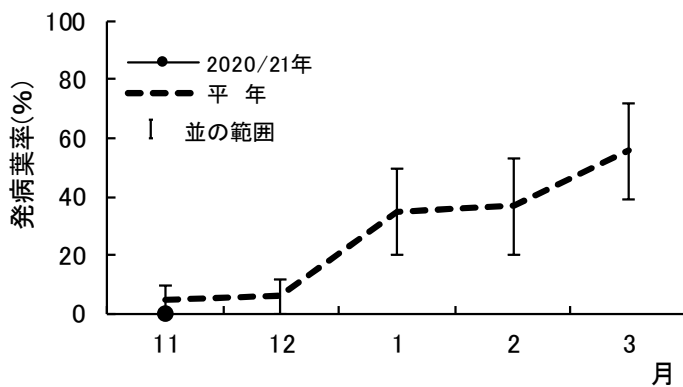
防除のポイント

- ・ほ場周囲に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ② うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

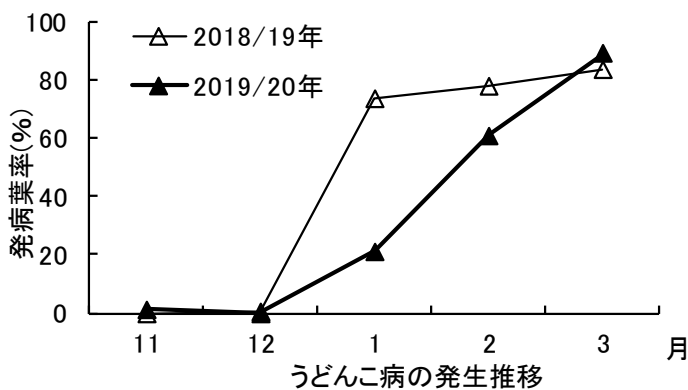
調査結果

今期と平年の推移



うどんこ病の発生推移

過去 2 年の推移




うどんこ病の発生推移

・発生ほ場率：0% (平年値：45%)

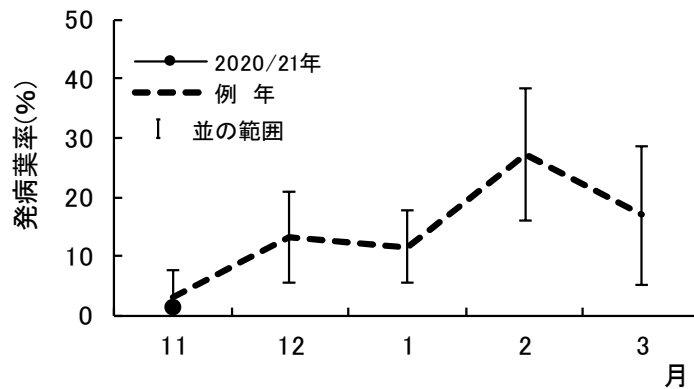
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多施用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

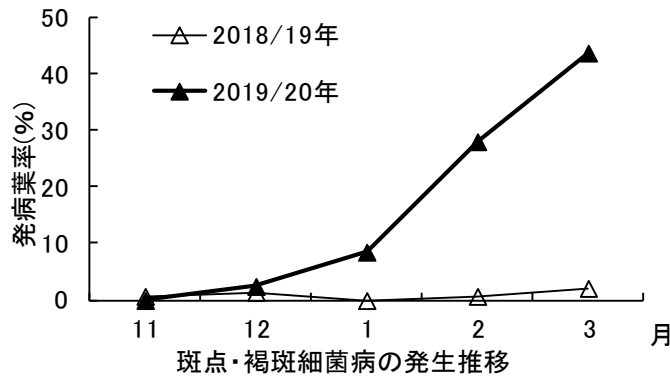
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ③ 細菌病 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：60% (平年値：20%)

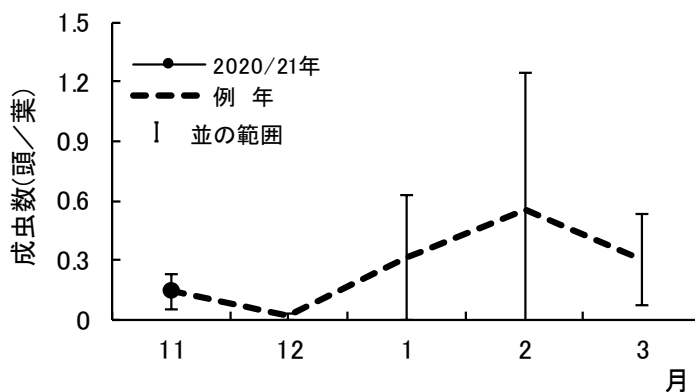
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前の予防散布を徹底する。

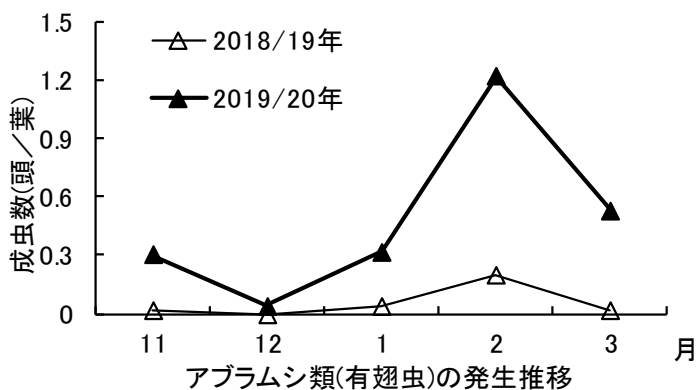
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ④ アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↘ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↘) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：60% (平年値：60%)

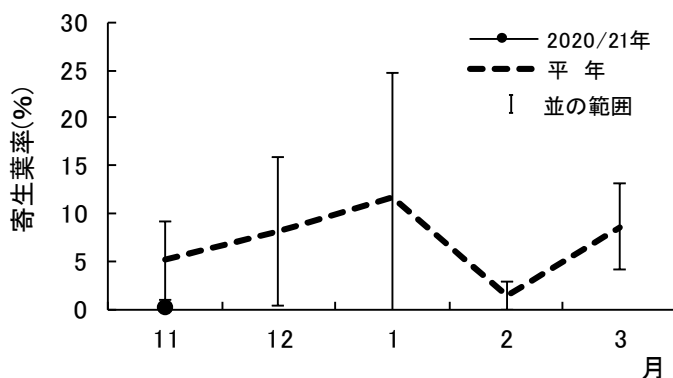
防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

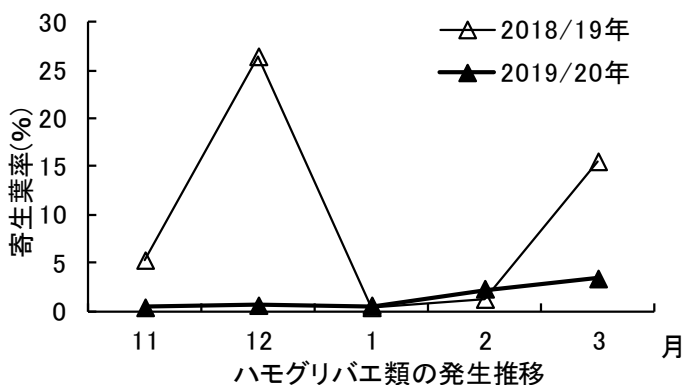
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ⑤ ハモグリバエ類 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移




・発生ほ場率：80% (平年値：86%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

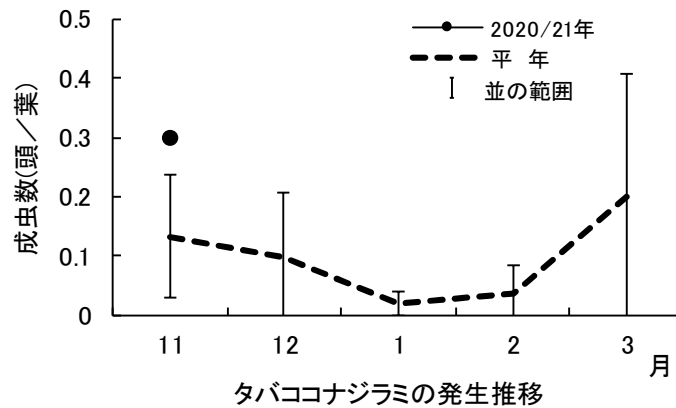


幼虫の死骸 (農薬などで死亡すると黒色に変色)

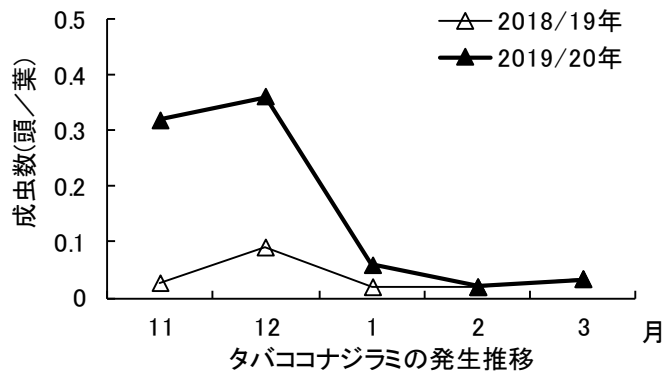
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | かぼちゃ | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ⑥ タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↓ | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | やや多 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↓) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：80% (平年値：76%)

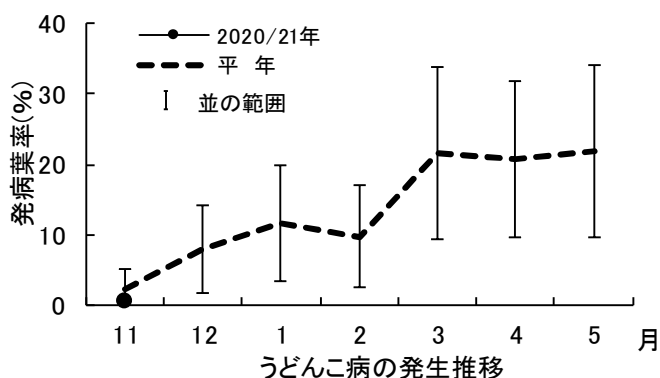
防除のポイント

- ・多発すると白化症を引き起こし、生育不良となる場合がある。また、防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

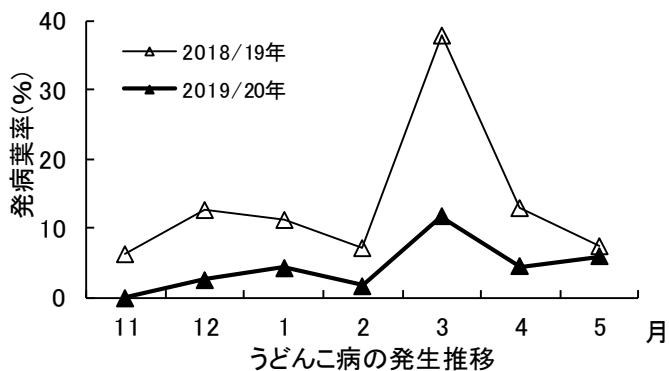
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ① うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：25% (平年値：43%)

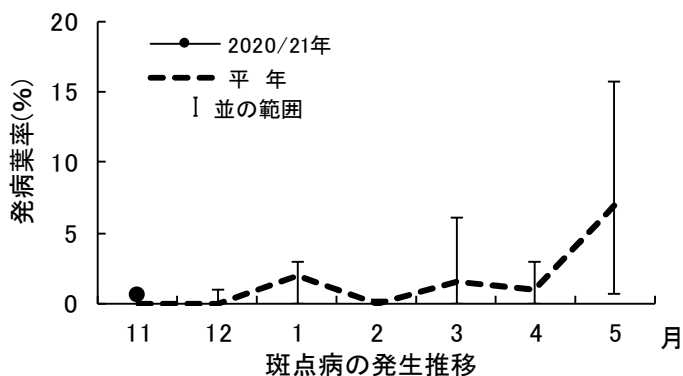
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

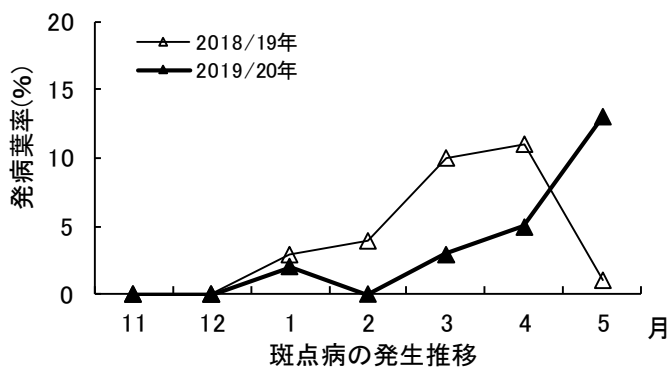
| | | | |
|-------|----------------|---------------|-------|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ② 斑点病 | | |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | → | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：50% (平年値：21%)

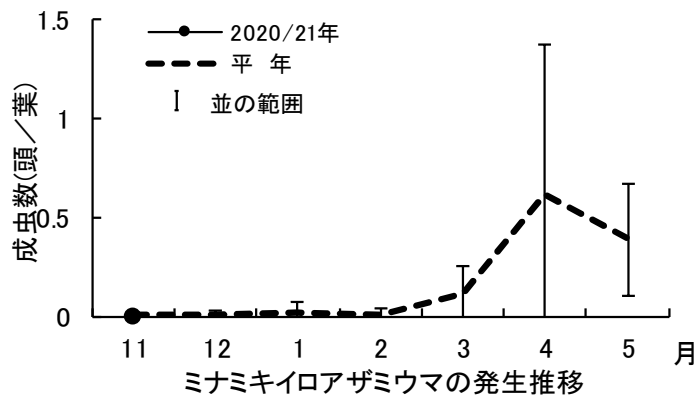
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

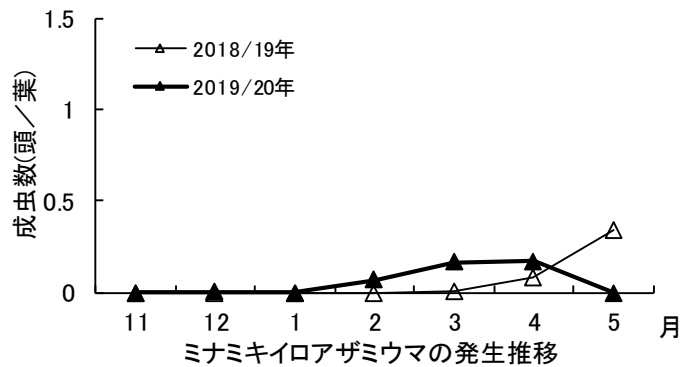
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ③ ミナミキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | → | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率：0%（平年値：7%）

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

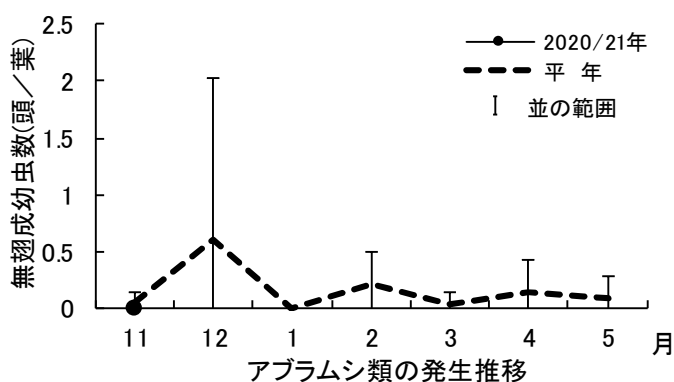


果実の被害

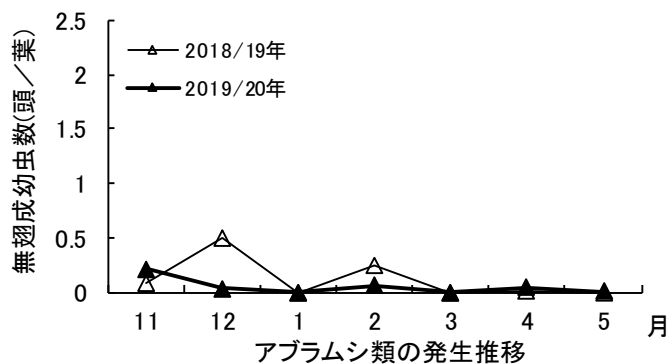
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ④ アブラムシ類 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：0%（平年値：21%）

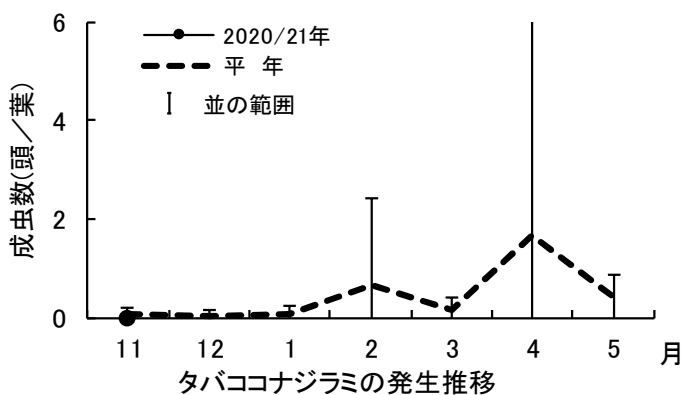
防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

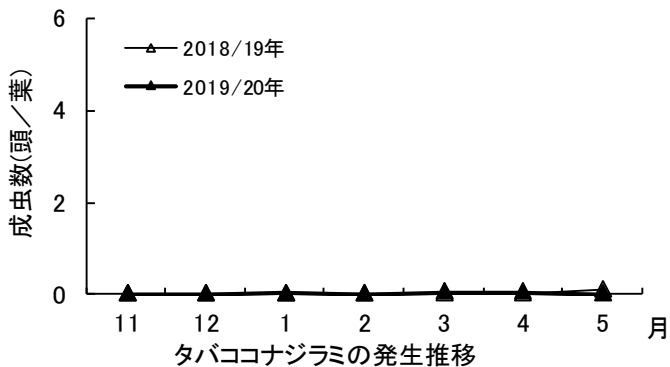
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 八重山群島 |
| 病害虫名 | ⑤ タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | → | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：0% (平年値：21%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。